

麦穂だより

第79号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎 2022年6月
事務局 川崎市宮前区宮崎 2-2-4 エクセル佐々木 108
村田芳包 TEL090-1427-7260
ホームページURL (<http://musashinouдон.dokkoisho.com/>)

麦と兵隊

会長 北條 秀衛



「麦と兵隊」といえば1938年（昭和13年）に雑誌「改造」発表された小説軍記文学で、100万部以上の版を重ねたベストセラーで作者は火野葦平である。また、それをもとにした戦時歌謡「麦と兵隊」は東海林太郎が歌いこれも大ヒットした。

「麦と兵隊」

徐州徐州と人馬は進む
徐州 いよいよ 住みよいか
しゃれた文句に振り返りゃ
お国訛りのおけさ節
髭が微笑む麦畑
(2番・3番略)4番
行けど進めど麦また麦の
夜の深さよ夜の寒さ
声を殺して黙々と
影を落として肅々と
兵は徐州へ前線へ

この歌は軍歌で歌詞は勇ましいが、メロディは物静かで厭戦歌でないかと言う人もいる。

この徐州へ、当時日本から煙台に派遣され大学で日本語講座を担当していた友人の長さん（伊藤 長和氏）の案内でグループ旅行をしたことがある。山東半島の青島空港から煙台に行き、周辺を見学した後泰山で有名な泰安市に向かった。一日がかりの移動であったが山東省を走るバスの車窓からの眺めは果てしない農地であった。その時は麦の季節ではなかったが、ガイドはここは麦の産地で日本の軍歌にある「麦と兵隊」の徐州とはこの辺りのことであると説明してくれた。

ひるがえって600坪の我が武蔵野農園の麦であるが、今年は大豊作で例年の1.5倍であった。ウクライナ問題や世界的干ばつから麦の価格が高騰しており、何か俄か長者になった気分である。そう

例えば「玉ねぎ」も高いそうであるが自家栽培、自家消費の我が家にとっては縁のない話である。

さて、麦刈りは今年も梅雨の晴れ間6月4日（土）に総勢20人で举行了。朝9時からお昼までの予定であったが、なんと午後2時半迄かかってしまった。例年にない豊作だったので時間がかかってしまった。口差のない連中は高齢化が進み働くスピードが落ちてきたのだとたたまう。

スピードで思い出す人が二人いる。一人はコロナ禍の中で二年前にお亡くなりになった前会長の池田 輝夫さんであり、もう一人は今年三月十一日に亡くなられた監事の島根 正隆さんである。二人とも地下足袋をはきキビキビと麦を刈っていた。他の人の倍の速さで刈り取った麦

の束も、嘘ではなく倍あった。今年、時間がかかったのはエースと四番バッターが欠場したためだと私は思わずにはいられない。

コロナ禍で病院よりは自宅療養を選択し、半年間、家族と共に過ごした島根さん。病人ではあったがよく食べていたと家族から聞かされた（生前から体は小さかったが大食漢であった）。また、楽しい人生だった、やり残したことはない、みんなありがとうと言っていたそうである。コロナで家族だけの密葬と聞き、一目お別れしたいと三月一六日に会計の中野さんと自宅を弔問した。昨年、島根さんが刈り取った麦から作った「うどん」をお供えてきた。穏やかでいつもの島根さんであった。（合掌）

麦に関する俳句の季語

○麦の秋（麦秋・ばくしゅう）

他の穀物が秋に黄熟するのに対し、麦は初夏黄色に熟するのでこの季節を麦秋と呼ぶ。満目新緑の中に広がる黄色の麦畑には絵画的な美しさがある。

○麦刈（むぎかり）

熟した麦を刈ること。昔の人は麦は立春から120日前後に刈るものと教えた。

○麦扱（むぎこき）

刈り取った麦を扱いて、その穂を落とすのである。昔は素朴な麦扱機を回しながら1束ずつ麦を扱いたが、最近では機械化が進んでいる。

○麦打（むぎうち）

扱き落した麦の穂を打って、実を落とす作業である。以前は竿や杵で打ち、麦埃が盛んに立った。現在は機械化されている。

○麦藁（むぎわら）

麦を扱き落したあとの茎である。麦畑を仕舞うときに麦藁を燃やす煙のたなびくのは、麦扱の埃とともに、麦秋の感が濃い。藁はよく燃え灰は肥料になる。またストローにしたり、染めて細工に使う。

「ホトトギス新歳時記」（昭和51年発行）より一部を割愛

小麦粉のできるまで（昔の小平）

「饅頭」第6号・平成5（1993）年12月発行より引用

1. 麦まき

10月中旬～11月初旬

2. 麦ふみ

麦が少しのびてきた12月ごろから春にかけての暖かな日に2～3度

3. 土いれ（土のふりこみ）

4月の初めごろ、麦の株の風通しを良くするため（分岐させる）上から土をふりこむ。
（ふりこみジョレンを使用）

4. 土よせ

5月ごろ麦を大きく強くするため根元に土を寄せる（1番、2番とって1～2回）

5. 麦刈り

6月中ごろの晴れた日に、刈り取った麦は束ねて干しておく（梅雨どきなので濡れないように注意する）

6. 脱穀・調整

晴れた日、良く乾いた麦の穂をこき、むしろに干して、くるり棒で打ち、実を取り出し、カラと実に分ける（千歯こきとくるり棒を使用）

7. 乾燥・保存

乾いた実をさらによく干して、俵（かます）に入れて保存する

8. 粉ひき

必要な時（人寄せ、もの日など）必要なだけ水車（製粉所）で粉にしてもらう



麦刈りに参加して

幹事 江原光子

前日の雨が嘘のように晴れ上がり、時折涼しい風の吹き抜ける穏やかな天候の下、初めて麦刈りに参加しました。9時前に着くと既に作業は始まっていて、たわわに実った麦穂が目につきました。先着隊はわき目もふらずに刈取りに専念していましたが、刈れども刈れども減らない麦穂を手際よく束ねながらの作業は、スギナ、カラスノエンドウ、青い麦を取り除きながらの手順で滑らかには進みません。膨大な束ねた麦を集めて干す場所を決めて、四隅を深く掘り下げていく力仕事も加わり、15人で水分補給もそこそこに昼過ぎになっても全体が刈り取れない状況でした。梅雨入りが翌々日6日と気象庁の発表があり、乾燥、脱穀の日程もお天気任せでは、小麦粉が出来るまでの大変な苦労が改めて実感できました。協力してくださる方々に感謝です。

活動報告(前号以降)

12月5日(日) 第2回講習会 会場 高津高校 調理室

10:00~12:30 参加12名 役員9名

13:30~16:00 参加 9名 役員9名

栗木634農園で採れた黒川産地粉100%で講習会を行いました。

1月19日(水) 第6回役員会 かわさき市民活動センター 会議室

18:00~20:00 役員6名

3月6日(日) 第4回講習会 会場 高津高校調理室

コロナ感染症拡大防止の為、中止になりました。

6月4日(土) 麦刈り 会場 栗木634農園 参加者9名

6月12日(日) 麦脱穀 会場 栗木634農園 参加者6名

今年は、昨年より多く収穫できました。12月の講習会で使用します。

今後の講習会の日程

第2回講習会	10月2日(日)	高津高校調理室
第3回講習会	12月4日(日)	高津高校調理室
第4回講習会	3月5日(日)	高津高校調理室



12月5日 講習会



1月19日 マスク姿で役員会



令和3年度 麦踏み



刈った麦を束ねている

ウドンウドンウドンウドンウドンウドン あとがき ウドンウドンウドンウドンウドンウドン

故島根正隆様は、発足以来監事を引き受けてくれました。いつも上機嫌で、当会の活動や運営に先頭に立って関わる指導者でもありました。無業息災そのままに、軽トラで県内

の公園整備やボランティア活動に走り回っていた勇姿と、とびっきりの笑顔を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。(光)